



スパイス

8月26日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

物好きな人だねえ。こんな辺鄙なところにわざわざ訪ねてきて。あたしなんかのはなし聞いたってしょうがないだろうに。なんだっけ？ フロンティア時代の人の証言を集めてるなんて言うけどね、あたしたちは自分のこと、全然そんな風には思ってたよ。フロンティアとか英雄的な方々ってのはあたしたちより1世紀も前の人たちのことだって思ってたね。あたしたちはただの労働者だよ。え？ あたしの仕事？ 太陽エネルギー高効率利用システムの実証実験をね。大袈裟な名前だけど、まあ、いまとなったら誰の家にもある当たり前の設備なんだけどさ。

何が聞きたいって？ え？ 旦那さんのこと？ ああ。うちのダルマのことかい？ 何も話すことなんかないよ。うちのひょうろくだまは自分じゃ何にもできやしないんだから。一体全体あの役立たずの何が聞きたいんだい？ どうして結婚したのかって？ どうもこうもないさ。好き合ったから結婚しただけさ。なにも珍しい話じゃないだろう？ そりゃ確かに、いまじゃあんなだし、あたしももう、たいがい愛想尽かしてるけどね、これでも惚れ合ったときもあったのさ。

いいんだよ。遠慮することはない。その通り、見ての通りの片輪者さ。手も足もない。興味がありそうだから教えてやるけどアレもないんだよ。何だって？ ああそうさ。結婚してから事故にあったんじゃない。あんな風になっちまってから結婚したんだ。あたしもバカだね。結婚したってアレもできやしないのに。ああなる前はね、なかなかいい男だったんだ。ひょうひょうと減らず口ばかり叩いているような男だけどね。何があって全部冗談で笑い飛ばすようなところもあって。

もったいなかったねえ。あんたはまだうぶな感じだからわかんないかもしれないけどね、うまかったんだよアレも。それも指先が器用でね。指だけで何回もいかされちまうくらい上手だったんだよ。あんたわかるかい？ そういうの。それが事故であんななっちまってね。おかげであたしは欲求不満の塊さ。そりゃあ浮気もするさ。浮気っていうよりストレスの処理って言った方がいいんだけどね。いいんだよ聞こえたって。かまいやしない。もうさんざんそういうことはやりあってきたんだから。

え？ あんたそんなこと、どこで聞いてきたんだい？ ああその通りさ。あたしからプロポーズしたんだ。事故の後、あのひょうろくだまが「もう会うことはない」なんて言って寄越してきた。手もないくせに、どうやったんだか手紙なんか書いてきてさ。「バッカじゃないの！」あたしは叫んだよ。立て続けに三回は叫んだね。もう仰天だよ。事故のことなんか全然知らなかったからさ。その上「もう会えない」だなんて一方的に言ってきてさ。

「バッカじゃないの？ バッカじゃないの？」って叫びながら、あたしは通路をどんどん歩いていったよ。あたしの働いていたエリアから、あのダルマのいた薄暗いエリアまで行ってね。けが人を収容している部屋を見つけて、とめるスタッフを突き飛ばしてあたしは入っていったよ。そうしたらもう葉漬けでぼんやりした目であたしを見るのさ。「おやおや」って少し笑ってさ。「ぼくはもう死んだのかい？ 天使が見える」って。

頭と胴体しかないんだけどね、あたしは頭をペシペシ張ってやったよ。「何、勝手に決めてんだよ！」ってね。それで手も足もない胴体を抱きしめて言ってやったんだ。「あたしも勝手に決めるから！ 結婚するんだから！」ってね。いま思えばあたしもバカだねえ。あんたも気がつけた方がいいよ。勢いだけで結婚なんかしちゃロクなことないから。

何だって？ 口が悪いって？ 口が悪いんじゃないよ。正直なだけさ。土地の連中もこの店のこと「スパイスハウス」なんて言ってるらしいけどね。え？ 「激辛スパイスハウス」って言われたって？ あっはっはっは。それであんたなかなかたどり着けなかったんだ。あっはっはっは。ほんとは「サニーサイドハウス」なんだけどね。どういう意味かって？ まんまだよ。日の当たる場所ってことだ。この早はろくに日も当たらないからね。せめて店の名前くらい明るくしな

くちゃ。あんなのかかえて女手ひとつでやってくんだ。名前くらい景気良くいなくなっちゃね。

何を頼りに頑張れたかって？ 別にこれといってないけどね。ま、お客さんがついてくれたからかな。うん。あいつらこそ口が悪いけど、まあいい常連さんだよ。何？ お守りがあるかって？ そうだねえ。お守りみたいなものならあるよ。うん、これだ。おっと触っちゃいけないよ。大事なものだからね。ああ。ボロボロだろう？ でもまあこれがお守りだ。何かって？ なんてったっけな。ナメクジがどうしたとかこうしたとか。ああ違う違う。スネイル・メールっていうのさ。ま、あんたみたいな若い子にはわかんないだろうけどさ。

(「スパイス」 ordered by はかせ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

スパイス

<http://p.booklog.jp/book/32841>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/32841>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/32841>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.